

料金後納
郵便

ゆうメール

やまもり通信

NO. 256 2025. 7 NPO法人恵那山みどりの会



5/18(日) 2025年度通常総会開催 於:ひとまちテラス

7月より事務所休所日が(土)(日)(月)に変更になります

リニューアルしたホームページへのご意見、ご希望をお願いします

リニューアルホームページ

恵那山みどりの会

検索

<https://takaminecloud.mizunoinfo.com/4DCGI/MID2/>

竹の問題に取り組もう

河内龍二

リニア開通を中津川市も企業立地の、また観光都市として次の時代の足掛かりとして積極的に取り組んでいる。しかし、その開通も諸所の事情で遅れている。経済はタイミングが大切。開通が遅れるのは投資の回収が遅れることにもつながり、新たな対策も必要となる。観光面でも多少の影響もあると思うが、着実にインバウンドの増加でそれほどの心配もないのではと思う。

それ以上に中津川市の観光資源をもっと充実させる必要があるのではないかと思う。その為にも中山道沿いの竹林や観光地、市街地の竹林を整備し、綺麗な環境を作り上げる必要があることは当然としてもいろいろな場面で指摘してきた。

人工林に対する支援は国を始め行政も積極的に行ってきたが、荒廃竹への関心については消極的と言わざるを得ない。竹林は私有林に多く、税金をそこには投入できないという理由である。

荒廃した竹林の問題は特に所有者の高齢化や獣害、環境、景観面からもここ数年いろいろなところで取り上げられている。行政が直接かわかることは確かに、難しい面もあるが、地域住民や観光に携わる企業などが主体的に取り組む、行政がそれを支援する施策を期待したい。他府県でもいくつかの事例があり、我々もよく研究したい。

竹は古来、日本でも生活になくてはならない資源であった。生活の周りには、燃料、肥料、籠や箆などの生活資材、工芸品などに活用されていたが、石油製品にとって代わられ、竹は無用の長物と化した。しかし、環境保護の観点から、自然由来の製品は少しずつ見直されている。

当会会員であった故松葉さんは竹の工芸品の名人だった。竹で見事な夫婦鶴を再現したり、見事な花器を作られた。



竹林整備イベントで参加され、入会された〇さんから竹チップをたい肥や雑草抑えとして販売、活用する提案をしていただいた。大府市などの団体がすでに実施しているようだ。

放置されている竹林の整備は大変な労力を有する。これを解決するには、その活用方法と、整備するための住民の連携、行政の支援が不可欠である。当会としても、今後さらに活動を深めていきたい。

2025年度通常総会開催

事務局 河合博臣

2025年5月18日(日)に「中津川市ひと・まちテラスにて午後2時から開催され午後3時30分に閉会した。

司会者から正会員61名のうち、出席者19名、委任状25名総数44名正会員総数2分の1以上の出席があり有効に成立した旨を告げ開会を宣言し総会が始まりました。

議長は全員で互選し、正木宏之氏が選ばれ、2025年度通常総会の審議に入った。

2024年度は恵那山みどりの会の中心の活動拠点であり、市民の方々、子ども達の遊び場として笑い声が山にこだました「神坂窯」の撤去・整理がされ、5月23日に終了し、今後の活動場所は苗木の雑木林と茄子川のなすの森へ移りみどりの会の更なる活発な活動の出発とすることを報告した。

次に、現在の会員数の報告で正会員61名(前年度比7名減)賛助会員56名

(前年度比2名増)総数117名です。

会員の高齢化が進み、新しい会員の獲得が課題となっている。そのためにも、会の活動を多くの方に速やかに発信し、広い年齢層に活動の内容や状況を知らせ、みどりの会活動等に理解を深めてもらうためのホームページをリニューアルした。会員の皆さんにはぜひ恵那山みどりの会ホームページにアクセスしてみてください。

実施した活動は、恒例の竹林整備とタケノコ掘り、市民門松づくりとどんど焼き及び炭焼き、薪づくりと薪の材料調達の委託作業、森づくり体験会、子ども達のはっぱっぱなどの活動です。新たな活動では坂下高校へ出前講座を行った。

決算報告を含め2024年度活動報告は全て異議なく承認された。

2025年度の活動についての提案の審議に入り理事長から運動方針を提案し、来年はみどりの会25周年の節目を迎えるにあたり、これまでどんな成果があったのかを見つめ直し25周年

を目指した活動にしたい旨をアピールした。この提案を受け、各部から活動方針を提案した。森づくり部は熱中症対策を行い安全な作業方法の確認、技術の向上、市民向け間伐体験会の開催等から森を育て、森を守る方法等の体験をする。森林活用部は炭焼き、薪づくり、これらの販売等を通じ資源の活用を図る。ヤマガキ隊はなすの森・雑木林の森の活用に向け整備保守をする。はっぱっぱは、子ども達等に森への環境保持の関心を持てるイベントの開催や同時に保護者のスタッフ参加の活動を進める。財政から本年度活動予算は、昨年度と同様の規模とし、会員等からの会費、イベント収入、委託事業及び炭等の販売収入を見込んでいる。

2025年度活動と活動予算を提案し、その承認を求め全員異議なくこれを承認した。また、議長から議事録署名人を秋江文雄、伊藤守を示したところ異議なく承認され、以上もって2025年度通常総会に関する議事を終了した。

森づくりだより

高山 庭木手入れと枯松等伐採
四月十六日(水) 五名

十七日(木) 三名
会員の自宅の庭の整備を頼まれ、気になる枝の切落とし等剪定もどきの手入れを行った。

よくしたもので、普段庭木や立木の整備をしておられる方は要領よく手を入られ、次々と剪定され一日でほぼ庭木の手入れを終了した。

ご主人から別の個所の松や檜の伐採を頼まれたが、それも含め一日目を終えた。

二日目、気になっておられた枯松含め三本の松を伐採した。

寝かす場所が限られており、三本とも梢から三m程を切り落し、上部にロープを取付け、他の庭木に支障のない個所へ寝かせた。

最後に庭木二本の上部切り落しを頼まれたが、余裕をもって無事終了した。

子野 ヒノキ・スギ伐倒作業

四月二十四日(木) 三名

二十八日(月) 四名

以前にも当会で伐採してもらったところがあるということで、再度依頼されたもので、裏山というか宅地に隣接したヒノキ・スギの植林木三十本ほどの伐倒作業を行った。

一日目は伐倒範囲奥の境目からクサビ、ロープ掛け、チルホール等状況に応じて伐倒した。枝払い、玉切りは不要ということ、ひたすら伐倒を行った。

この日の最後として少し細い杉にロープ掛けをしたが、直前の伐倒木が境界のヒノキにかかり木となり処理に手間取り、スギは次回として一日目を終えた。

二日目は前回残したスギの伐倒から始め、午後からの天気予報が雨のため休憩抜きでひたすら伐倒作業に専念し、昼過ぎに終了した。

少し遅い昼食後、用水上に出た通行に支障となる枝払いを行い、雨が降り出したところで無事終了した。

瀬戸 広葉樹高切り伐採

五月 七日(水) 九日(金)

十五日(木) 各三名

六月 四日(水) 四名

会員の知り合いで瀬戸にお住まいの方からの依頼作業で、住宅地裏の雑木林内にある大径木のハナノキ、サクラ等三本の株別れ箇所での高切り伐採である。枝の一部が住宅屋根に掛かっているため切りたいとのことであった。

まずは、ハナノキとサクラの枝を切り落とす個所の柴刈りから始めた。藤ツル等も絡んでおり、難儀な柴刈りではあったが手分けして二時間ほどで終了した。

まずサクラからかかる事とし、樹上、地上と枝切り落としの準備を行い、建屋の屋根に掛からないところは、直接切り落とし、屋根に掛かる枝はチルホールで吊りながら切り下した。そろそろ終了時間と思い、一日目の最後の一本と受口を入れかけたら、ガス欠となり終了とした。

二日目は前回残したサクラは後に回

し、ハナノキの切り落としにかかった。地上二m程の所で三、四十cm程の二本に株別れし、それから三、四m程の所で三十cm程の二、三本に株別れしている。従ってその位置で順番に切り落すこととして、寝かしたい場所に対し偏心しているのは、チルホールで牽引しながら切り落した。

屋根に掛かりそうなのは当然チルホールで牽引したが、ロープの取付け位置が少し低く二人掛での操作となった。チルホールの方向に偏心していたため寝かす方向へ完全に起こしきれず、チルホール操作者には怖い思いをさせてしまった。

このころから右肩の違和感がひどくなり、樹上での移動がままならず作業時間を浪費してしまった。残り三本のうち二本は何とか切り落として二日目を終了した。

三日目、残しているハナノキとサクラは何としても処理したい。改めてハナノキを確認すると寝かしたい方向とは逆にかなり偏心している。いい加減

な位置にチルホールの牽引ロープを取付けると大変なことになる、覚悟し作業に取り掛かる。

何とかそこそこの位置に牽引ロープを取付けたが、樹上での動きがやはりままならず想定以上の時間が掛かったが、前回のようなハット・ヒヤリすることもなく寝かすことができた。

地上二m程で二本に株別れしている高切作業でハナノキの作業を終了した。その後、初日に残したサクラの高切作業を行い、三日目の作業を終了した。

四日目、ヤマザクラと思しき(以降ヤマザクラ)最後の広葉樹の高切作業に着手した。

今日で終わらせようと意気込んで取り掛かったが、やはり昇樹に時間が掛かる。

離れの屋根に掛かる枝の切落しのため、落としても支障の無い枝を何本か先に落とし、樹上での段取りに取り掛かったが、地上が三人で処理が速い。半面上では移動に手間取るばかりで、つくづく体調管理の大切さを痛感した。

屋根に掛かっている枝二本を無事吊り下ろしたが、この株別れしているヤマザクラの中心を二十cm程のサワラが貫通しており、少し離れた個所にもスギがありヤマザクラと針葉樹の枝が絡み合っている状況である。改めて切り下ろす方法を検討しながらの作業となり、ままならない移動と合わせ時間ばかり浪費した作業となってしまう、三分の一程の出来高で四日目を終了した。

今後梅雨入りと猛暑の時期を迎えるため、しばらく間が開くことを依頼主から了承を得た。

四月二十二日(火)晴れ 五人 薪作り
五月六(火)雨 四人 炭焼き
五月十三日(火)晴れ 四人 薪作り
五月二十七日(火)晴れ 七人 薪作り
苗木瀬戸の看板撤去と草刈り
六月十日 (火)雨 三人 薪作り

炭焼きの記

当会への木炭の需要は、料理屋さんだけでは無く、火鉢を使った暖房と料理に一般家庭での使用が意外と多い。

冬までに炭焼きを使用と準備で、炭材づくり窯入れと進めてきた。残すは赤土を捏ねてレンガを積み上げての焚口づくりのみとなったが、冬到来で寒くなり春まで作業の延期とした。

三月にやっと焚口を作り火入れをする予定であったが、大船渡を始め各地の山火事が報道されると炭焼きが不安になってきた。高温で炭焼中に焚口が壊れたら、炭窯の天井に火は燃え移り雑木林は火の海となる。こんなことを想像し火入れを躊躇した。

たぶん、私は、炭焼きが一人仕事になり、しかも3k作業で複数の人の参加の見込みない長続きのしない活動と考えわざと引き延ばしていたのだろう。

空気中の湿度が高まった五月に火入れをすることに決めた。

始めに気休めに炭窯周りの吹き溜まりに集まっていた落ち葉を取り除き、連休最後の日に火入れを行った。

朝七時に点火。絶えず焚付けを入れ、一時間毎に煙突出口の温度を記録。焚口下部の通風口の隙間の調節、煙突出口の幅の調節をしながら窯内の温度を上昇させる。

初日の昼食は、豚汁が振る舞わ

れ、夕食にはタケノコご飯・タケノコの煮付けと山菜のおひたし。アルコールの差し入れもあり民宿の様な料理が並びこのまま休みたくなかった。おいしく頂き残りは自宅へ持ち帰った。

夜は一人作業。夜中に雨が激しく降り出し、雨樋からあふれ出した水で一時大きな水溜まりが出来た。一人作業、雨降りやや不安な一時だった。明け方四時に交替した。

初日は曇り空、夜中に雨が降る湿度の高い炭焼き日和？予定より一日早い四日で終わった。

堅い炭か、多くは灰になってしまったか炭の出来具合が気になる所だ。

三日目の夜に雑木林窯の近所の方から煙と臭いしかも夜は誰も居なかったと不安の電話があった。今までに無かったことで懸念材料が増えてしまった。

ヤマガキ隊の活動報告

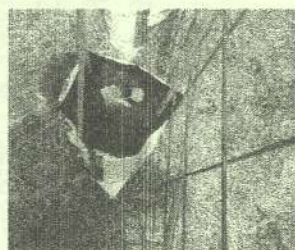
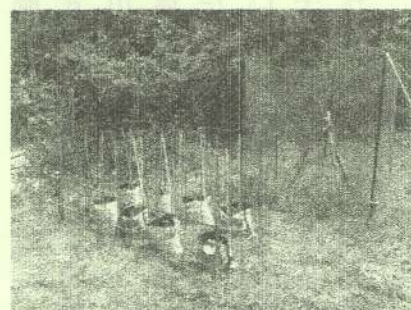
(5・6月の活動)

① ギフチョウとカンアオイの 植生調査

なすの森に4月21日にギフチョウとカンアオイの植生調査を行いました。森全体にカンアオイが植生していることが確認でき、又、ギフチョウが飛んでいることも確認できました。この調査の結果、カンアオイに卵を産みつけていることも確認できました。5月11日にカンアオイのマークしたところを卵の育成等の確認をしたところ卵と幼虫の確認することができました。来年も多くのギフチョウが森に飛んでいる光景が見ることができると思います。多くの市民の方になすの森に足を運んでもらえるようギフチョウの住みやすい環境を整えるよう活動していきます。



カンアオイと幼虫が食べた後



千成ひょうたんを育てます。

来年の活動の一つで「ひょうたんで作るランプ・花炭」の材料を育てています。朝の水やり、肥料等の作業でなすの森へ用事が続きますが、秋の収穫等を楽しみにしています。

ひょうたんの棚とツル棚

竹林整備で発生した真竹と竹の枝土と肥料

土は腐葉土を購入、肥料は熟成鶏糞

苗木の保護

鹿等から苗木を守るため、

丸鋼網金で防護

《リレー投稿》

考えてみたい住みやすい町づくり

地域活動から見えてくる中津川市

理事 柴田弘明

現在住んでいる中津川市の未来像について皆さんはどのように見ておられるでしょうか。リニアに夢や希望を託して、一日も早い開通を願っている人は少なくはありません。一方、観光地としての町おこしに期待して、歴史や文化に恵まれた条件や環境を活かした町おこしにつなげたい人達も多いことでしょう。いずれも特定の企業や行政に期待するところになりますが、それだけでは極めて不十分ではないでしょうか。現在多くの自治体では急速な過疎化現象に頭を痛め、あの手この手の対策に力を入れています。必しも成果は上がっていません。但し、限られた地域では若い世帯や高齢者層が増加している年もあるといわれ、共通している点は保育や居住面などの環境に力を入れている点や、高齢者や弱者に対する手厚い支援がされている等、地域ぐるみ、町ぐるみのコミュニティがあつて生活環境が良好であることなどがあげられます。

す。

果たして中津川市の場合はどうでしょう？市民の中から強い要望が出されていた補聴器購入の際の行政からの補助や、高齢者への交通支援策など全国的にかなり進んでいる制度が先の議会ではことごとく否決されたりしている点を考える時、相当遅れている感覚を持ちますし、一方では議会ではほとんど発言されない議員さんがあることや、少なくとも議会の定数をさらに減らすような提案まで出されているなど考えられないようなことが中津川市の実情です。住みやすい住環境や町づくりにつながる課題などがことごとく否定されているように感じている人は少なくありません。

地域の高齢者の集いで、中京学園の生徒たちとの交流会が何回かあつて楽しい時間を過ごしていた時に学生から聞いた話ですが、多くがバイトに参加しているが中津川市内は条件が悪く、恵那市などほかの地域に行っているものが多いという答えでした。返事を聞いていてなるほど納得した思いでした。親の仕送りで県外からの学生が大半で、この地域での生活を希望する者はな

く、バイトも条件の良い恵那市の方へと聞き、中京学院の移転話も理解できた気がします。

住民参加で済みなくなる町へ！

市内には当会のようなNPO団体を始め、営利目的でない団体やグループが沢山あり、様々な活動に取り組まれています。しかし、一方で多くの団体が後継者や資金繰りで悩んでいると聞きます。自治会では役員のなりて不足で留任が続く地域も。共通している点は、活動が評価されず、働き甲斐が失われていることにあるという。議会活動といえども同様で、住民から出された切実な要望や意見が十分な議論もなく、廃案になったりすれば議員や議会への信頼は薄れます。悪循環となり、結果、住みづらい町になりかねません。中津川市にとって必要なことは住民に寄り添い、共に考え協力し合う姿勢であり、住民はその為に積極的な意見や要望を提案していく双方向の信頼関係を築くことではないでしょうか。その為には、住民同士の交流や各種団体との連携など結びつきを大事にした取り組みを進めていくことにあるような気がします。

2025年 7 月・活動/打合せ予定

日	曜日	時間	活動内容	会場	対象	備考
6 日	日	13 : 30	役員会	事務所	担当・役員	
13 日	日	9 : 00	ヤマガキ隊	なすの森	会員・一般	
15 日	火	9 : 00	定例作業日	雑木林窯	会員・一般	
21 日	月	9 : 00	ヤマガキ隊	なすの森	会員・一般	
27 日	日	9 : 00	ヤマガキ隊	なすの森	会員・一般	
29 日	月	9 : 00	定例作業日	雑木林窯	会員・一般	
30 日	水	13 : 30	企画会議	事務所	担当・役員	

8 月 イベントと森の学校の予告

日時	行事内容	会場	備考

編集部連絡：原稿締切は毎月20日です。 また、手書き原稿は「河内」までFAX等で提出してください。 森林、資源、地域の問題などで当会の活動に関連あるご意見などをお寄せください。 関係の深い記事など通信に記載します。	発行責任者：NPO法人恵那山みどりの会 理事長 河内 龍二 事務所 〒508-0042中津川市西宮町2-13 (TEL・FAX 0573-65-1366) 13:00～16:00(月・土・日・祭日休み) メールアドレス：midorinokai@wine.ocn.ne.jp
--	---

2025年 8 月・活動/打合せ予定

日	曜日	時間	活動内容	会場	対象	備考
3 日	日	13 : 30	役員会	事務所	担当・役員	
10 日	日	9 : 00	ヤマガキ隊	なすの森	会員・一般	
12 日	火	9 : 00	定例作業日	雑木林窯	会員・一般	
18 日	月	9 : 00	ヤマガキ隊	なすの森	会員・一般	
24 日	日	13 : 30	編集会議	事務所	担当・役員	
24 日	日	9 : 00	ヤマガキ隊	なすの森	会員・一般	
26 日	火	9 : 00	定例作業日	雑木林窯	会員・一般	
27 日	水	13 : 30	企画会議	事務所	担当・役員	
27 日	水	13 : 30	通信発行	事務所	担当・役員	9・10月号

9 月 イ ベ ン ト と 森 の 学 校 の 予 告

日時	行事内容	会場	備考

編集部連絡:原稿締切は毎月20日です。
 また、手書き原稿は「河内」までFAX等で提出してください。
 森林、資源、地域の問題などで当会の活動に関連ある
 ご意見などをお寄せください。
 関係の深い記事など通信に掲載します。
 イラストなどもお寄せください。

発行責任者:NPO法人恵那山みどりの会
 理事長 河内 龍二
 事務所 〒508-0042中津川市西宮町2-13
 (TEL・FAX 0573-65-1366)
 13:00~16:00(ゲツ・土・日・祭日休み)
 メールアドレス:midorinokai@wine.ocn.ne.jp